

監査公表第8号（平成23年11月25日、県公報第3332号）
農林水産部出先機関定期監査結果（平成23年度）

第1 監査の概要

1 監査対象機関、監査対象期間及び監査実施期間

- (1) 監査対象機関：農林水産部の出先機関22機関
 (2) 監査対象期間：平成22年度
 (3) 監査実施期間：平成23年5月31日～平成23年7月13日
 監査対象機関ごとの監査実施日は、次のとおりである。

監査対象機関名	監査実施日
福岡農林事務所	平成23年5月31日～平成23年6月2日
朝倉農林事務所	平成23年6月6日～平成23年6月8日
八幡農林事務所	平成23年7月4日～平成23年7月7日
飯塚農林事務所	平成23年7月4日～平成23年7月8日
筑後農林事務所	平成23年6月28日～平成23年6月30日
行橋農林事務所	平成23年6月20日～平成23年6月23日
農業大学校	平成23年6月14日
農業総合試験場	平成23年6月15日～平成23年6月17日
農業総合試験場豊前分場	平成23年7月12日
農業総合試験場筑後分場	平成23年7月13日
農業総合試験場八女分場	平成23年7月12日
農業総合試験場果樹苗木分場	平成23年6月9日
中央家畜保健衛生所	平成23年7月12日～平成23年7月13日
北部家畜保健衛生所	平成23年7月12日
両筑家畜保健衛生所	平成23年7月12日
筑後家畜保健衛生所	平成23年6月9日
筑後川水系農地開発事務所	平成23年6月14日～平成23年6月17日
森林林業技術センター	平成23年6月20日～平成23年6月21日
水産海洋技術センター	平成23年6月22日～平成23年6月23日
水産海洋技術センター有明海研究所	平成23年7月12日
水産海洋技術センター豊前海研究所	平成23年7月8日
水産海洋技術センター内水面研究所	平成23年7月13日

2 監査の主眼

今回の監査は、財務に関する事務が適正に執行されているか、併せて経済性、効率性及び有効性に考慮して執行されているかに意を用いて実施した。

特に、工事の設計積算については、その経済性を重点事項として監査を行った。

3 監査の範囲等

(1) 財務に関する事務の監査の範囲

ア 収入

農林水産手数料、生産物売払収入、農林水産業受託事業収入、弁償金等の調定及び収入事務

イ 支出

賃金、報償費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料等の支出事務

ウ 人件費

報酬、通勤手当の認定及び支給事務

エ 契約

契約の締結及び履行確認事務

オ 公有財産

土地、建物、工作物、樹木等の管理状況

カ 物品

取得、管理及び処分の状況

キ 工事

工事の執行状況

ク 補助事業

補助事業の執行状況

(2) 重点事項の監査の範囲等

ア 監査対象機関

農林事務所等7機関

イ 監査の視点

- (ア) 再生資源（再生砕石等）を使用して、経済的な設計積算が行われているか
- (イ) 現場打コンクリートと二次製品の経済性比較がなされているか
- (ウ) 他工事と連携した工事の実施について検討がなされているか
- (エ) 新技術の積極的活用による工事費の低減が検討されているか
- (オ) 計画的及び合理的な設計が検討されているか

第2 監査の結果

今回の監査の結果、下記事項を除き、調査した範囲において適正に執行されていた。

1 財務に関する事務

(1) 指摘事項（是正又は改善を要し、適正又は妥当性を欠くもの）

該当なし

(2) 注意事項（指摘のうち、軽微なもの）

注意事項に該当するものは、次のとおりである。

区分	件数	内 容
収 入	1	公衆電話料金の手数料収納事務は適正であったが、使用すべき預金口座が誤っていた。
支 出	1	荒廃森林再生事業交付金の交付手続きにおいて、進捗管理上受理すべき届出の一部が、市町村から提出されていなかった。

区分	件数	内 容
工 事	1	予定価格の算出に係る積算事務において、一部で経済性を考慮していなかったものが見受けられた。
	1	予定価格の算出に係る積算事務において、一部で適正でないものが見受けられた。
	2	工事に係る積算事務において、一部で適正でないものが見受けられた。
その他	1	所属の金庫の中に、職員の私的な現金（70,400円）が保管されているなど、適正な管理がなされていなかった。
計	7	

2 重点事項

監査対象工事 789 件のうち 116 件（抽出率 14.7%）について抽出調査を行った。

- (1) 再生資源の使用については、経済性を考慮した設計積算が適正に行われていた。
- (2) 二次製品の使用については、現場打コンクリートとの経済性を比較したうえで、設計積算が適正に行われていた。
- (3) 他工事との連携については、17 件で実施され、水路工事によって発生した泥土を他の工事に再利用するなど、経済性を考慮した設計となっていた。
- (4) 新技術の活用については、10 件で採用され、コンクリートの打設時に出る不純物を構造物の一部に取り込むなどにより、工事費の低減を図るよう設計されていた。
- (5) 計画的・合理的な設計の検討については、刈草の処分経費が経済性を考慮した積算となっていなかったものが 1 件見受けられた。

監査の 視点	(1)再生資源 の使用		(2)二次製品 の使用		(3)他工事 との連携		(4)新技術 の活用		(5)計画的・ 合理的設計	
	適	否	適	否	有	否	有	否	適	否
監査結果 (件数)	116	0	116	0	17	0	10	0	115	1

今後とも、工事の設計積算を行うにあたっては十分な経済性の比較を行うことにより工事費の低減に努めることが望まれる。